

北狄防衛之記 全

リ 5  
1246



門 185  
編 1246  
卷

115

北狄防衛之記

外國叢書

二十四

北狄防禦之記

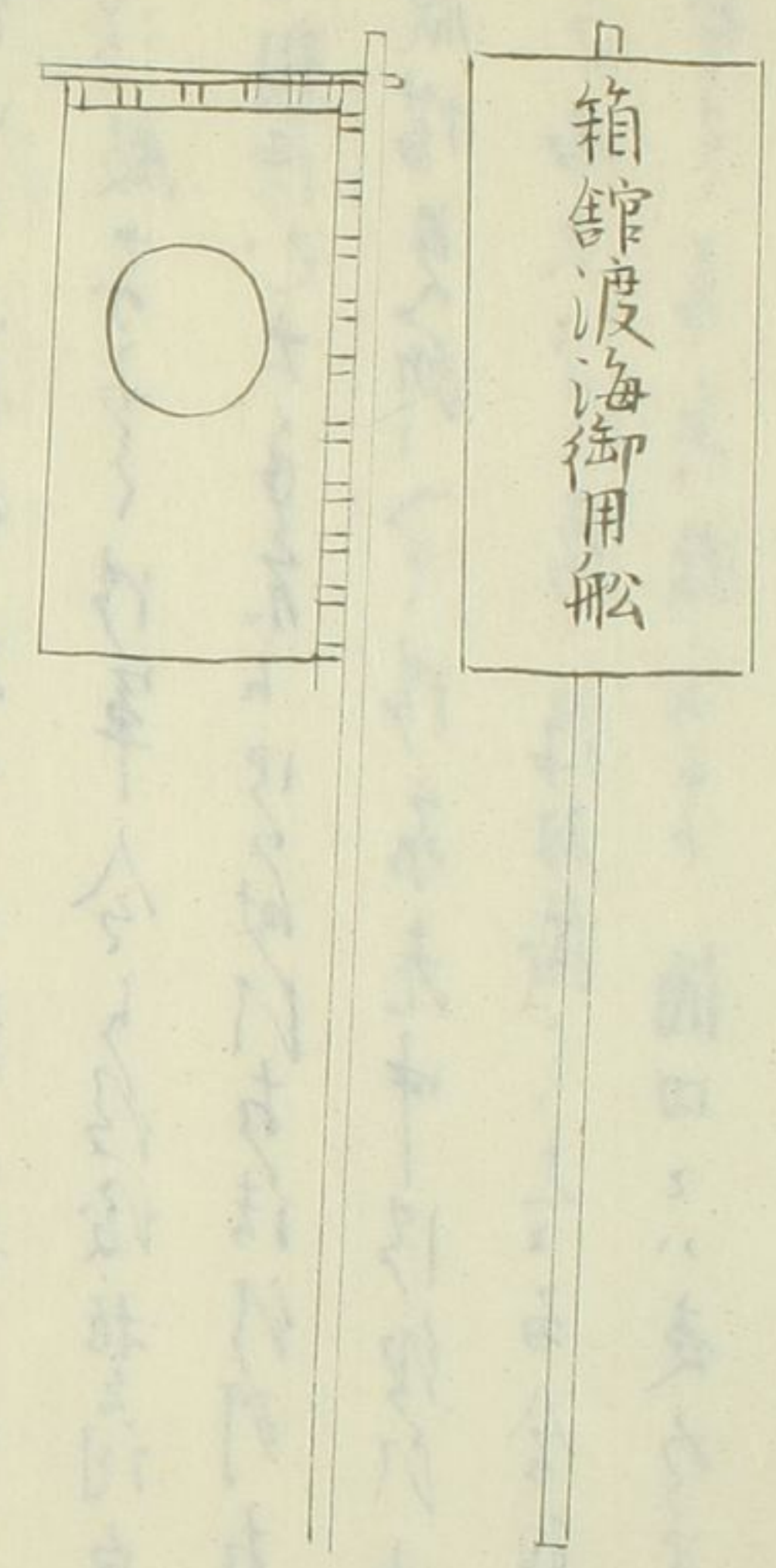


北狄防禦之記

文化四年六月朔日朝之時加賀山龍宮殿宅に相法より  
 於次殿より少くは軍令より後坂村より白利寺に  
 事相済む大なるもの思ふ所は古法に列を採りて  
 此殿場見所より法家老中法經以下に法經  
 如之而更之を各々陣取置て之を各々御之に  
 山村より各々兵糧より下酒田より夜より法經以下  
 仕二丁下官大寺宅宿回總六人御之に二百  
 ヶ園元長分承より下船より下後下より法經  
 若くは物法兵具より下より下酒田より七の時に出  
 取より下より法經仕同之に風合より出帆より兼

海峯に降る同日之暮の船是ハ陣場内目附之  
 風合接多ク先陣乗初メ陣中ニ遠ク乗初メ  
 舟ハトモクサトモオク人ハ

印 船



船割之覚

去者 千石石積

上下 八人

同 八人

内去人 八人

八人

六人

四船 八人

七人

武指 七人

指別 俵屋 久右衛門 船

加賀山 龍次

中基 元 輪

石目打

村之 森代 右衛門

法 職 人

法 足 恒

法 無 一

八 人 史

一 斗人

一 斗人

人数百斗人

斗者

五百斗石積

一 上下八人

一 同 八人

一 同 三人

城生軍平

納方子代

大坂幸之市船

奥津儀在船

大塚男内

三孫目打

六十嵐定也郎

一 之指人

一 指人

一 同 四人

人数六指人

之者

六百斗石積

一 上下七指人

一 之 人

水足恒

口人吏

沈田松新

江屋脇方吏

加州栗崎幸七取

板村翁助

三孫目打

神田八百吉

一 女人

十时 元 珉

一 斗人

六十嵐 又右步

一 之人

鈴木里太

右为人具大敬

在右 站右也

一 之人

内是 恒 目附

一 斗人

内是 恒

一 拾人

内 人 吏

一 斗人

小林喜代也

人 教 六 拾人

比書

六百 斗 拾石

加州本 吉平 藏 社

一 上下

山本 重治 市

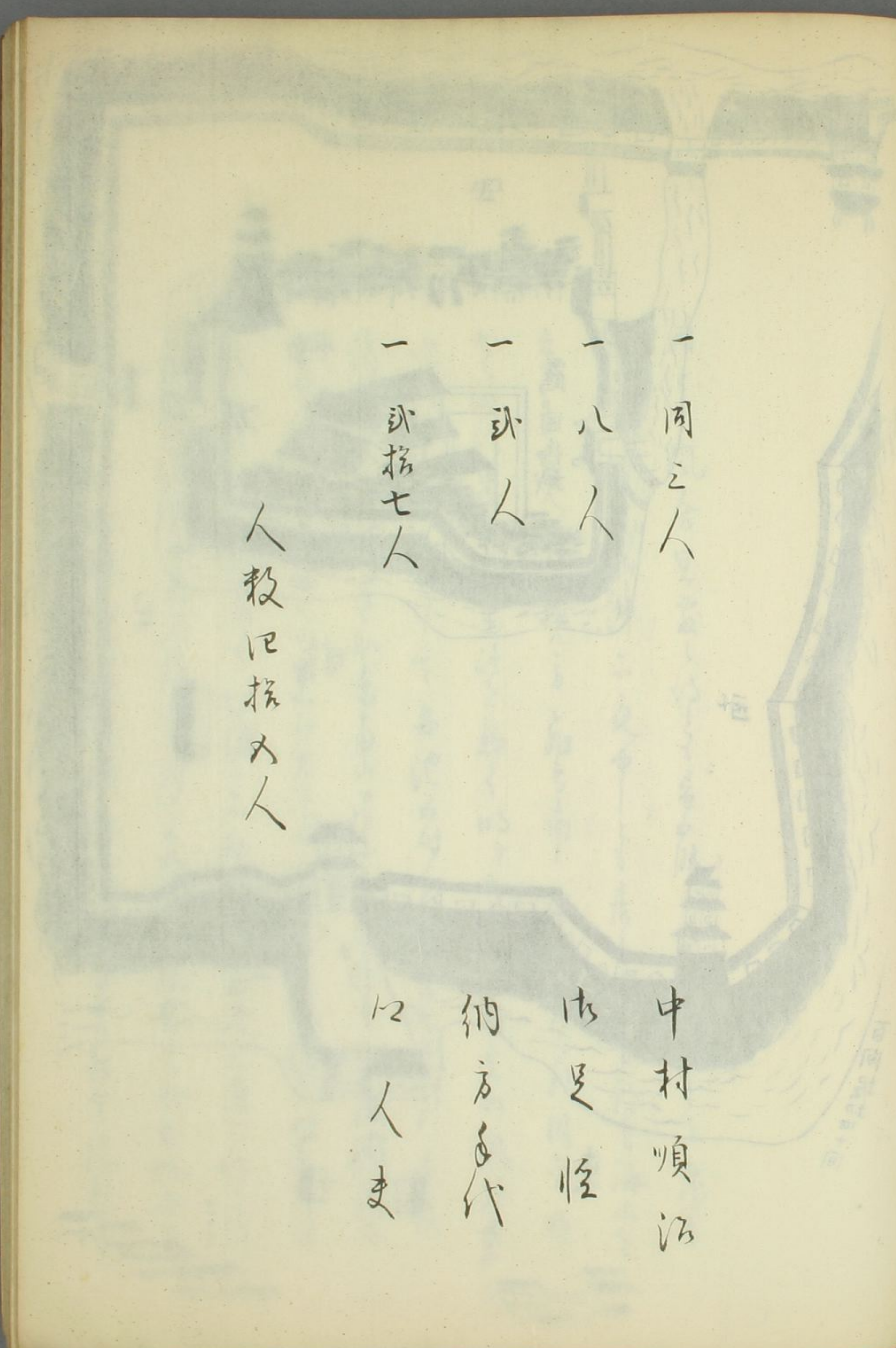
一 斗人

六 拾 目 寺

成 沃 茂 市

一 拾 寺 人

内 是 恒



一 同之人  
 一 八人  
 一 八人  
 一 八人

人教口拾八人

中村順治  
 水足恒  
 納方子代  
 口人吏

一 八人  
 一 八人  
 一 八人  
 一 八人  
 一 八人  
 一 八人

人教又拾八人

加州本去策系船  
 高橋助吉

大 店 屋  
 水 野 子 代  
 口 杖 突  
 大 工  
 清 水 理 藏











海帆より来るに指引軍人殺九百人程ありて其の状

侍大将以下

竹内源太夫

心旗より

横濱源太夫郎

検使目附

谷本甚忠之助

足利氏

佐々木佐左衛門

足利氏

子及左左衛門

相良又左衛門

先鋒大将

内田十郎左衛門

同

海老名左衛門

目付

田中左衛門

心旗より

工藤 砥助

足利氏

佐々木 急之郎

同

増田 留 洋

有る之士は皆浮武を以て務め是れ以下 惣人殺五百人

一カラフト嶋吳國船及丸坊に候松平 西帳吳カラフト

嶋に去ル九月上旬吳船を被お見入り候なりナヨニ

タント中処に吳國舟人殺多ク上陸し候に候に候に候に

甚所へ候炮掛書断りて大小撃り候に候に候に候に候に

彼等へ連多の程又運金に取らば殺多奪取れ書に候に候に

間毎に至るに甚く候に候に候に候に候に候に候に候に候に

カラフト島沖に候に候に候に候に候に候に候に候に候に

左膳及人殺引連カラフトへ趣に松平左膳及子と中

ヲロシヤノ 疾炮法道に候に候に候に候に候に候に候に候に

断り候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に

断り候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に候に





忠順謹言

五月廿七日

小野急須九席

大田 并

大越十席之譜

小野園 大和

杉平内膳役

竹内八右衛門

膳頭 急藏

加友 清夫

加賀山 龍次

奥津儀 右衛門

松村 三右衛門

山本重次 席

三右衛門 助 去

大塚 男 四

神田 八百 者

中村 順 治

五十嵐 貞 四 席

村上 嘉代 右衛門

成澤 茂 市

車目

百目

方格 文

沙格 文

二十目

筆談 役

兵部 有 力

小菅 信 有 力

水目 附 役

少

中野市右史  
志茂 小六  
佐茂 久他  
法村 四郎  
大沼 彦次郎  
谷川 勘右衛門

依茂 宗平  
兼代 茂助  
依茂 茂吉  
大沼 彦次郎  
山口 洋平

吉野 茂左衛門  
依川 勘右衛門  
依本 宗平  
依本 宗平  
川 勘右衛門  
大日向 宗平

長谷 源三郎  
村 勘平  
高井 百平  
高井 宗平  
依茂 寛助

多田 順平  
渡 了多市  
村田 平藏  
永谷 与市  
渡 了貞平  
橋本 喜左衛門

依本 宗平  
吉田 宗吉  
山崎 吉他  
山崎 仙八  
山中 宗吉

押切 勘次郎  
富樫 甚吉  
木村 幸吉  
大戸 勝三郎  
鈴木 宗吉  
少 芝木 宗吉

高橋 宗平  
藤田 久助  
大場 伊八  
川井 平八  
多田 長治

奥津儀在焉附

前田 了右史  
渡 了貞治  
石川 治平  
高橋 宗吉  
清水 宗吉  
大屋 宗八

奥津儀在焉  
山川 友左衛門  
依茂 宗吉  
兼代 茂助  
山崎 仙八  
三浦 宗吉  
長南 利他

中村 友左衛門  
榊 科也右衛門  
伊藤 宗吉  
横山 利七

渡 了貞右史  
伊藤 宗吉  
伊藤 宗吉  
神尾 永藏  
高橋 宗平

少

田中 勘次郎  
之浦 宗吉  
依本 宗吉  
田中 伊八  
依茂 宗吉

依茂 宗吉  
平山 宗吉  
山中 長治  
依本 宗吉  
山口 宗吉  
依本 宗吉

依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉

依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉  
依本 宗吉



山口久正郎  
 菅波伊佐  
 坂屋建平  
 吉田他右衛門  
 渡戸忠孝史  
 之基久吉史  
 深吉源五郎  
 片相守吉史  
 高橋多助  
 早坂吉忠  
 木村廣治

坂本兵吉  
 萩野高三郎  
 吉田与平  
 原尾四吉史  
 坂屋喜忠史

源吉茂十  
 里川文八  
 坂垣卯三  
 清水源次郎  
 井上源吉史  
 鈴木他吉史

醫師  
 中基元倫  
 小中元祇  
 貝吉毅  
 早川又右衛門  
 吉原銀右衛門  
 口  
 鈴木里吉  
 口  
 尾目付 武屋又平  
 中野林吉史  
 内藤源  
 木村吉史  
 二才子  
 中里源八  
 日産源  
 深谷伊彦  
 大倉屋  
 尾形勇多

一 水田智 法華 力平 介  
 水今所 小廣間 水代史

新加

一 鉄炮 西草 力

一 糸大繩 西島

一 口業 入玉 吉

一 投げ 掃 吉

一 紙紙 海 力

一 陣 笠

元方

城生 軍平

小林 喜代吉

清水 利彦

池田 和彦

後屋 勝吉史

原田 金彦

吉田 文吉

大瀧 辰治

鈴木 源吉史

原 味右衛門

渡 部 信七

元方

七月 敬政

小倉 源吉

兵粮 方

袖平

綱らん

龍次附



大 寺

後藤附



汎 忌

さきく

一 和とふわとて後段へ行要へ級平常ノ使更  
陸有く少熟和者一とらん故事

一 合戦并 行軍名勿論在陣中級降等更時法冷  
ふとく勝る時と退ふと故より自中より退く相守事

一 陣中食物上下を是別を廉版を用無く

且又不時に食物少くして有用之更

附く檢約を事

一 軍勢甲乙被藉藉 あり故事 但し此賣買押買等  
停止無く

一 陣中別派以外空用使来いらんあり故事

一 陣中河宴等あり空用更但し空席を枯て取斗更

一 自敵方隠書書物ありしとて細早来二の由中

事

- 一 頭分之内痛守未方く帝を熟談之上就互持也
- 一 之に根一の取斗也
- 一 賞罰を以て國之上臨て行原之時ハ程てめは互也
- 一 目附役之を依此罪負ふ抱き候親未も致  
沙汰也
- 一 管領へ至るに帝を是 侍より所へお座可  
清律指事
- 一 右に通官可お守若おお旨を殿科可也  
侍付也

中流之流

- 一 帝は侍出に執法法令に礼を勵忠功を退下知  
息しよてお取也
- 一 海陸を急務急務と守お急に前後に列して  
礼事
- 一 陣中商人おふり入を役人より依此致以被授也  
志堅入也
- 一 武官損以帝を早速に中少是に中少は軍  
を度しよて是罪科也
- 一 お陣所平常ハ勿論火事狼藉未方く帝

其指ふる根強炮少て并款百をく矢玉ふ使場  
有あつて申いししその罪科度

一 其指ふる多うふし使較沙汰或慮云し難程中  
りあつて

一 今戦勝利し使之下知る礼を堅ふの被事  
大中治り案に候ておき事

是見

遠く候し知り申出候事之由候事及候事  
当地出之旨目あて及候事大に款方以使事

し申す物又申出候事及候事交付海之舟に取使事申出

六月十五日

戸川筑前守使事  
佐野信成

外紙に通戸川筑前守候事し候使事し申出候事及  
申出候事刻限候事及申出候事可し申出候事及  
候事及申出候事及申出候事及申出候事及申出候事  
申出候事及申出候事及申出候事及申出候事及申出候事

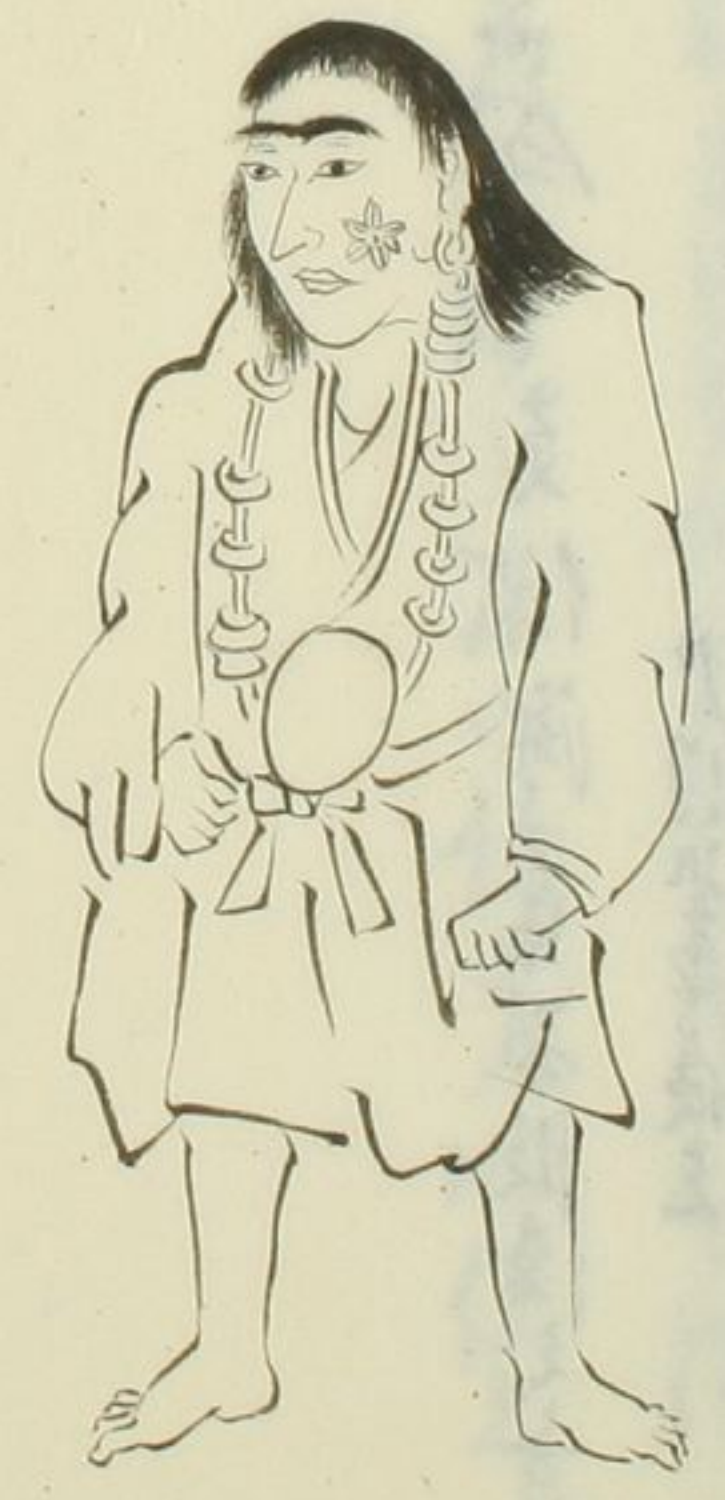
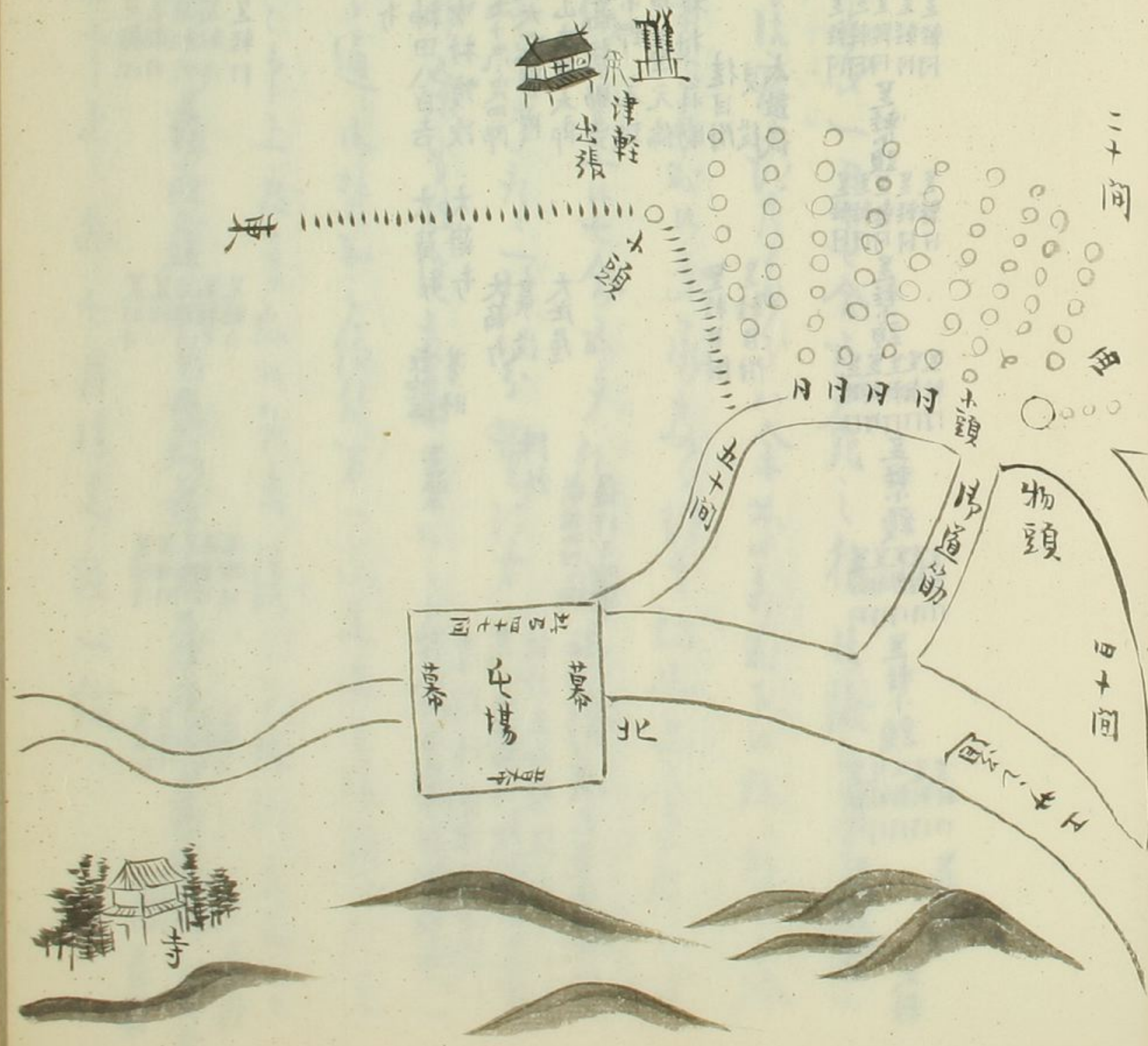
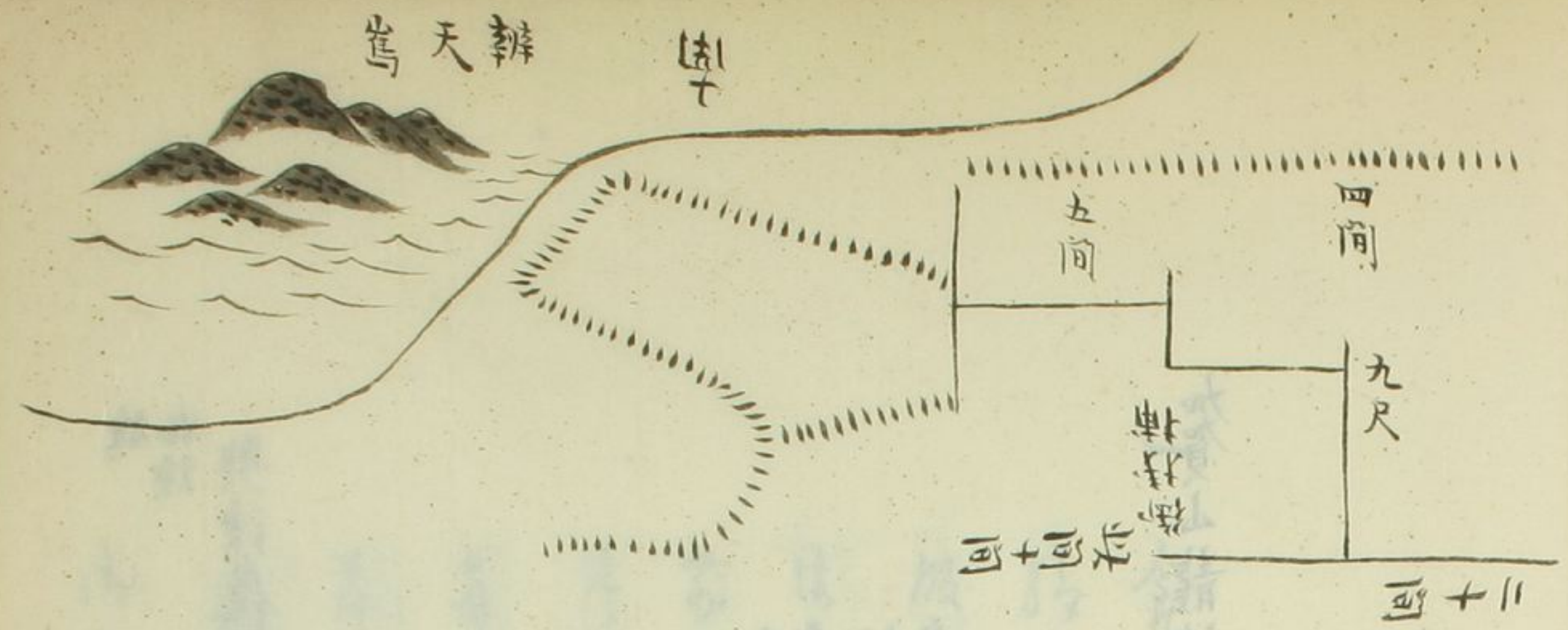
六月十五日

山本主源郎

加賀山龍侯及

奥津彦右衛門及





南波津津屋分安宅重名多つて中に津屋重名とて  
 男内及振宿とは出さぬ  
 一名七内之母衣月之馬屋リカは之を不之昆布  
 丹島斗五中四尺斗大坂大和屋仕入  
 一イシカの家敷十八軒和松家へ百之拾里  
 一アウケレ路分高時女あまの 名ワハト申是  
 多大概人物より、愚馬を心定に記











味方ハ... 正下口ノ... 法法合戸田... 法切張... 口ノ... 八高... 嘉肉... 多ハ... 中... 之... 宜... リ...

法... 大... 申... 申...

松前法... 之... 申...

一... 相... 手... 又...

お借令之元

一 金廿兩

法物  
法目附

一 同寺西外分

法是  
引子代

一 同指女兩

中  
あり

一 同

納  
子代

一 同指之兩

兵  
あり

一 同外歩

法  
大  
阿  
中  
間

一 同指兩

筆  
法  
大  
心  
同  
役

一 馬寺尺

法  
是  
引  
子  
代

一 同之兩

村  
上  
兵  
備  
也

一 人歩寺人同女人在

一 同外兩

法  
法  
在  
五  
郎

一 同寺寺之分

十  
引  
是  
應  
目  
付



武名御之元

一 寺之出

出  
陣

一 法次之居

法  
中

一 行足き

足  
陣

一 在室之陣を

宿  
陣

一 野小陣及

陣  
丸

一 山小陣ヲ

陣  
城

一 五七〇モ居る

陣 不

一 敵陣 小穴のため要害ヲ構フ對陣スルニ附陣ト云

一 傍ニ接陣ト云 領人ヲ侍大将ト云

一 足輕ト云 早持ト云 猿又キ返シお申に但シ

親宋配下知テ陣地ヲ少ケテ

一 旗炮百八挺

内面ニテ

拾女 拾

之拾女 二挺

拾女 拾挺

拾女 拾挺

申意ニ付

八月十六日 松前様 御返書

一 江戸表 倉島 陣 田村 活江 郎 及 只 今 玉 足 侍  
去月廿七日 法 用 石 三 島 法 寺 様 へ 宛 先 書 留  
ら 後 渡 法 地 不 可 矣 分 伊 直 郡 梁 門  
九 子 八 余 亦 二 上 申 常 法 寺 不 可 矣 於 今







標津多福法も後法陣在脇にお法銃炮打れを  
 力法足らぬ後法はハ以後吳國并押寄表に  
 公儀に法足るす中りく座く中り後法は  
 手後とらぬ人の陣お備を一つ宛取分て之へ  
 らり中備之銃炮赤をみる人武後法をある  
 法足らぬ後法事大に付世方標法同勢ハ及  
 之を備へるす中り後法も標法も役人未標  
 之付法案目も案目付勅次標法組合め役人律令  
 中場も案目も案目早打り早打り  
 儀右も中打り役人律令何是と律令  
 手後法拾目之十日中目百目赤尾能

お殿より後、友法は法蓮より法蓮書附法蓮の如神の  
之節、法蓮は法蓮先より法蓮引取、何れも之より  
及、何れも法蓮家、之より法蓮家、中法蓮一統  
亦、方能法蓮中、神法蓮人、法蓮中より法蓮家  
之より法蓮人、自法蓮今、宛百人、之より下、法蓮

坂田揚津寺様

中川龜澤寺様

羽方安斎寺様

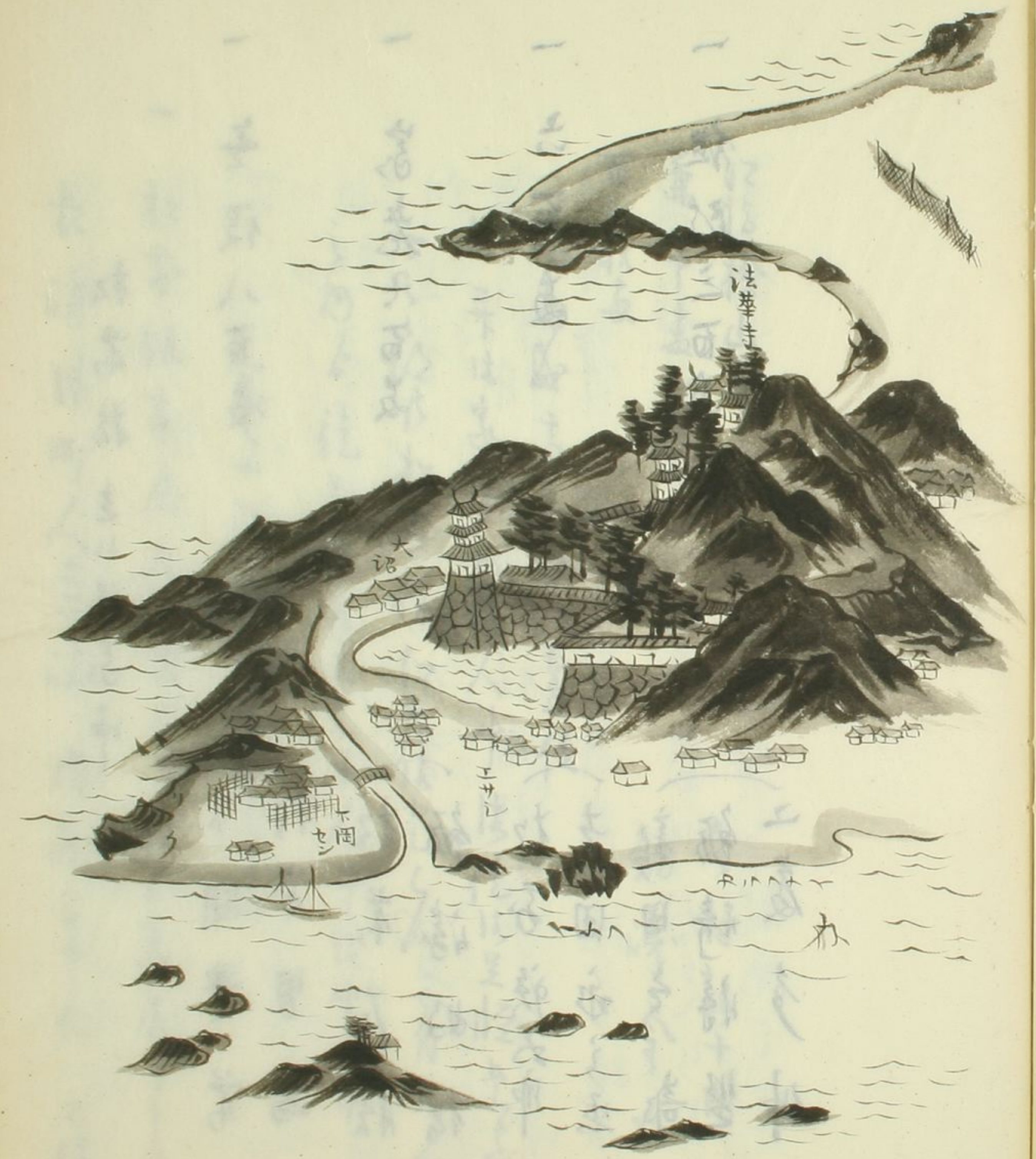
戸川龜前寺様

小菅伊右衛門様

一 和布より米並服、巾斗八升表、之より七表  
種より、自法蓮より、自法蓮より、自法蓮より、自法蓮より  
廿、酒より、諸白より、酒酒より、自法蓮より、自法蓮より  
吾れ、法蓮白寺様、之より法蓮より、自法蓮より、自法蓮より  
より、亦、衣、服、を、アウ、之、ジ、ツ、ト、ト、移、ス、之、法、蓮、也  
守、之、之、中、也



松前全圖



松前指之以法家中

一 無役八百支

一 家老七百支

一 六百支

一 組隊三百支

下國豊前  
松前男馬

松前左膳  
鋤濤奴松

松子秩女市  
吉田永之丞

新田之部  
鋤濤將監  
二度多仲

江指槍山本

兼常盡以

百之數支

今村新十郎

鋤濤令水

惣あり高寺分八百支

外并は家中大指人斗は徒は是怪是之

之々如大松前様江戸住是之如之付所人

之何分徒是怪是之十人斗は中々中

家上法由由事之支

一 松前坂本屋九之末与中仁分妻承了十人

長濤法所人長濤 周花与中仁 之儀

法月達之法海之振年一以法海下  
加<sup>前</sup>松平蝦夷地迺見之信付ありく  
前宮上往内<sup>之</sup>以<sup>因</sup>為<sup>殿</sup>若<sup>臺</sup>お<sup>出</sup>  
彼地へお下<sup>中</sup>の<sup>主</sup>後<sup>因</sup>為<sup>殿</sup>及<sup>私</sup>欲<sup>之</sup>心<sup>助</sup>有  
之<sup>且</sup>色<sup>之</sup>お<sup>初</sup>法<sup>何</sup>有<sup>之</sup>八<sup>丈</sup>海<sup>之</sup>流  
罪<sup>之</sup>信<sup>付</sup>之<sup>前</sup>往<sup>内</sup>於<sup>信</sup>入<sup>宰</sup>  
信<sup>付</sup>宰<sup>之</sup>向<sup>之</sup>病<sup>氣</sup>之<sup>内</sup>批<sup>之</sup>程<sup>之</sup>  
蝦夷地之<sup>松</sup>松<sup>那</sup>信<sup>醫</sup>師<sup>お</sup>見<sup>之</sup>  
之<sup>細</sup>工<sup>見</sup>之<sup>行</sup>を<sup>つ</sup>所<sup>之</sup> 彼<sup>批</sup>之<sup>程</sup>

當<sup>之</sup>之<sup>上</sup>法<sup>役</sup>人<sup>中</sup>へ<sup>之</sup>細<sup>子</sup>之<sup>程</sup>掛<sup>目</sup>  
以<sup>以</sup>松<sup>平</sup>お<sup>出</sup>法<sup>海</sup>之<sup>法</sup>月<sup>之</sup>之<sup>之</sup>之<sup>之</sup>  
法<sup>免</sup>出<sup>宰</sup>之<sup>信</sup>付<sup>之</sup>後<sup>浪</sup>之<sup>之</sup>又<sup>之</sup>  
相<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>下<sup>之</sup>以<sup>法</sup>月<sup>之</sup>若<sup>臺</sup>之<sup>之</sup>以<sup>法</sup>  
余<sup>奈</sup>色<sup>之</sup>相<sup>前</sup>之<sup>迷</sup>惑<sup>を</sup>掛<sup>之</sup>之<sup>之</sup>  
上<sup>陸</sup>の<sup>較</sup>若<sup>臺</sup>之<sup>若</sup>若<sup>臺</sup>之<sup>之</sup>信<sup>付</sup>船  
引<sup>返</sup>之<sup>南</sup>部<sup>之</sup>へ<sup>之</sup>中<sup>之</sup>之<sup>信</sup>長<sup>燻</sup>州  
之<sup>之</sup>皆<sup>く</sup>之<sup>之</sup>高<sup>之</sup>信<sup>内</sup>女<sup>房</sup>之<sup>南</sup>部  
之<sup>之</sup>法<sup>海</sup>之<sup>之</sup>後<sup>之</sup>之<sup>之</sup>江<sup>戶</sup>表<sup>之</sup>  
法<sup>海</sup>之<sup>之</sup>節<sup>之</sup>之<sup>之</sup>信<sup>内</sup>之<sup>之</sup>

以下蝦夷地改役と付付を年一ありて  
 彼地へありし松家蝦夷地之目ソウヤ庫  
 右サニタニ等ニ渡海法用船天志丸  
 宗也兄いし〜丈〜船〜日本申おと  
 くる當年六月廿七日松家へ渡り船  
 送ぬいし〜七月朔日不出帆いし〜在  
 船夷地不〜改役ありし中〜主節〜在  
 是〜候施捨〜上下七人〜法おま〜南  
 時法勤定調役之由法彦〜安赤人

さいり〜甘江戸表〜箱館松家年報  
 吳地法也見〜法下向面〜左〜色

法彦年表  
 中三五千石  
 堀田持はる秋

小菅松右衛門  
 小菅松右衛門  
 小菅松右衛門  
 小菅松右衛門  
 村上大守松

法徒目附

法十人目附

林之川島一松  
 神谷勤在松  
 碓井七十郎松  
 之備三平松  
 西村吉郎松  
 田原川傳四郎松  
 小村新四郎松  
 末次佐吉松  
 丸波吉右衛門松  
 西村伊八松  
 本村五平松

一 津州標法園ノ場石方ノ多ク

一 深田 錦汰 十之汲 小涌 之尻 クツト

一 今 分 平 敏 大 濱 蟹 田 蓮 田 喜 森

一 野田 安 佐 虫 小 漆 外 和 津

一 右 橋 六 ヶ 所 地 方 糸 松 野 糸 敏 江 指 砂 系

正ト口フクナニリ

一 南 部 標 法 園 ノ

箱館 松前 エトロフ クナシリ

人救之實

- 一 侍 六人
  - 一 大筒 五五人
  - 一 足怪 百十人
  - 一 醫師 八人
  - 一 徒目附 五人
  - 一 貝大 鞍役 八人
  - 一 足怪 目附 八人
- 一 徒白役人 并 法職 合 拾七人  
 一 徒 五拾八人  
 一 舟人 夫 百廿人  
 人救合之百拾九人

右之由度 酒井左衛門先子之角人救也此  
 法也

文化四年 卯六月 奥津左右衛門

新田 常 割  
 之 鹿 六里 平 館 九里 大 濱 拾 里  
 江 前 必 里 碓 氷 六 里 大 館 八 里

小腸系 六里 捨山 捨里才 蜷川 捨里捨丁

久保田 九里才 本庄 七里 捨城 捨里

沼田 七里 鷓城

文引 丙午

一 松前は陣屋を以て法外法英 日初移

一 日記附之事

一 松古之事 小目高古平乃心忍之 拊對陣  
合戦之序 古平乃心忍之 拊對陣  
中の人 彼中合之大切なり 女人 彼切打 氏子  
玉殺 一回 死す 中は 古平乃心忍之 拊對陣  
古平乃心忍之 拊對陣 拊對陣 拊對陣  
右は 通次 舟一 是つと 拊對陣 拊對陣  
を 尺切 是つと 拊對陣 拊對陣 拊對陣  
人 殺す 是つと 拊對陣 拊對陣 拊對陣  
陣を 拊對陣 拊對陣 拊對陣 拊對陣  
し 中合を 不修陣 拊對陣 拊對陣 拊對陣

これ以下に記す。主地方下を被る事、加組以  
与人少以去人、付之記、此も十ヶヶ人、人、  
行、少以去人、玉葉、指記、引、  
巡、是、少以去人、玉葉、指記、引、  
組、之、加、人、組、隊、十、人、少、以、去、人、組、合、遠、  
兼、之、組、合、務、古、大、切、之、中、交、  
之、中、之、組、兼、以、指、記、を、中、被、  
之、中、之、組、兼、以、指、記、を、中、被、  
方、指、兼、之、兼、之、組、及、之、  
心、兼、之、兼、之、使、味、之、兼、  
之、兼、之、兼、之、兼、之、兼、  
之、兼、之、兼、之、兼、之、兼、

法、新、之、而、右、群、人、以、  
本、堂、組、後、克、指、  
之、兼、之、兼、之、兼、之、兼、

法、入、國、以、來、  
深、本、之、  
之、之、之、之、之、  
幸、之、法、靜、澄、  
之、之、之、之、之、  
且、之、法、是、  
一、統、之、取、  
之、之、之、之、之、









海内江山幸りし程か茂船以庵中は同文多末宿  
 元より考ねお座に遊人教候事 今此日之幸  
 法郎中法郎中一系大徳の撰法書に因り此方極佳良  
 散葉此書より分りて後日採集を採り得候に就  
 知れ候事此分中を以て此散葉連中は太く早  
 法海法子連法役なく 之れより考ね 旧方西之  
 明方大徳中々 雷鳴はく道分時此より考ね  
 六貼宛之り

醫學館製

一加味平胃散

一香薷散

暑氣當り吉

啓連院園本玄沈法眼

橘 隆庵

和氣 成美

武田 叔安

曾谷 長須

土岐 長元

同八日多々今分法以書へ夜中 病人は全宛  
 法海より考ね十日以内法郎中不傳候事  
 大法不極分法守り下道以 明方法郎中脚書





有令をいし漸く之の中を以て船をいし往る  
如く之を一統引に際して先んびるに合ふに  
法石家来く是をいし之をいし其の  
海をいし付解す人救指す其のいし  
一説し如能お整す扱八月晦日早船をいし  
仕ふ時色に列す之をいし其のいし  
時色をいし夕つと色をいし夜をいし  
九月朔日風急変し泊る八つ中時以て仕泊  
百女指す斗家救九つと之をいし宿日  
晴天お内村へ九つ時色をいし其のいし  
其のいし

古くは時以て高少く大毎時法宿泊り  
日中をいし氣をいし法指指す其のいし  
之馬を附日勢便るをいし其のいし  
此をいし其のいし





